

平成23年度
石狩浜海浜植物保護センター活動報告

石狩市市民生活部環境室
石狩浜海浜植物保護センター

目次

事業概要	・ ・ ・ ・ ・ 1
1. 普及活動	・ ・ ・ ・ ・ 1
2. 調査・研究	・ ・ ・ ・ ・ 10
3. 見本園の整備	・ ・ ・ ・ ・ 13
4. 環境整備事業	・ ・ ・ ・ ・ 15
5. 来館者数	・ ・ ・ ・ ・ 16
6. 保護・回復対策	・ ・ ・ ・ ・ 17
資料	・ ・ ・ ・ ・ 19
沿革	・ ・ ・ ・ ・ 24

事業概要

石狩浜海浜植物保護センターは、将来にわたって自然豊かな海辺環境を伝えていくため、石狩浜の植生及び海浜生態系の保全を目指し、海岸利用者や市民への普及啓発、海浜生態系や海岸利用に関する調査研究、植生の保護・回復対策などに、市民、研究機関と協働で取り組んでいます。

普及啓発活動では、自然観察会や各種講座、学校等への学習指導、展示および通信誌やHP上での情報発信等に取り組んでいます。平成23年度、重点的に取り組んだ事業は「海辺の風景再発見事業」です。また、東日本大震災被災地である宮城県名取市で開催された「ふるさと海辺フォーラム」へ参加しました。

調査研究では、海浜植生の回復方法を探るための試験、長期的な植生のモニタリング、動植物の定期観察などに取り組んでいます。

保護・回復対策では、植生保護柵の設置及び保護区における監視員の配置、また、関係機関による連絡会議を設け、石狩浜の環境保全を図っています。平成23年度は、新たに海浜植物等保護地区を指定するとともに、石狩浜環境保全連絡会議において、石狩浜における海浜植生の保全の方向性が示されました。

その他、石狩灯台周辺の景観保全、見本園や観察路づくり等の環境整備等に取り組んでいます。

1. 普及啓発活動

1. 海辺の風景再発見事業

平成23年度は、石狩浜の自然の魅力と保全の必要性を広く発信するため、海辺の風景再発見事業として、表1-1のとおり、フォーラム等を開催しました。なお、実施にあたっては、石狩市内の社会教育施設や、札幌市、小樽市の自然系啓発施設と共催することで、広域へのアピールを図りました。また、環境保全促進助成事業として、全国モーターボート競走施行者協議会より助成金を受け実施しました。事業に係る参加者アンケートの結果は、P19～22に掲載しました。

表 1-1 海辺の風景再発見事業実施状況

■海辺の風景再発見フォーラム
「いのちあふれる石狩湾～海と海辺、魅力とこれからを語る～
5月29日（日） 参加者 105 名
基調講演：「石狩湾海中の世界」 ダイビングショップゼムハウス 藤田 尚夫 氏
パネルディスカッション：「石狩浜の魅力とこれからを語る」
パネラー1.「漂着物～海から陸への手紙～」いしかり砂丘の風資料館 志賀 健司 氏
パネラー2.「海はぼくらのお母さん、海や海辺は遊び場、そして先生！
・ ・ 海浜体験型環境教育の石狩へ」
NPO 法人ねおす理事長 高木 晴光 氏
パネラー3.「石狩海岸の保全と将来に向けて」
北海道大学大学院農学研究院助教 松島 肇 氏
コーディネーター：作家 林 心平 氏

■自然観察会「海辺の風景再発見の旅」

6月25日（土） 参加者 36 名

石狩砂丘をバスで巡り、風景や自然の魅力を発見しました。

指導：いしかり砂丘の風資料館、小樽市総合博物館、札幌市博物館活動センター学芸員、
石狩浜海浜植物保護センター職員

■自然調査体験「海辺の草原生き物調査隊」

7月31日（土） 参加者 36 名

砂丘草原や海岸林における生物多様性を学ぶため、罌をかけ、野ネズミや地表性昆虫の
生息状況を調べました。

指導：（株）さっぽろ自然調査館



海辺の風景再発見フォーラム（5/29）



海辺の風景再発見の旅（6/25）



海辺の草原生き物調査隊（7/31）



海辺の草原生き物調査隊（7/31）

2. 自然教室・自然観察会等

平成 23 年度は、表 1-2 のとおり実施しました。事業に係る参加者アンケートの結果
は、P19、P22 に掲載しました。

表 1-2 平成 23 年度自然観察会等の開催状況

■石狩浜・マクンベツ湿原自然観察会

5月14日（土） 参加者 41 名

はまなすの丘とマクンベツ湿原の野鳥や植物の観察。

指導：樋口 孝城 氏、栗林 宏三 氏（石狩鳥類研究会）

■石狩浜自然案内人養成講座

7月16日（土）参加者16名

自然教室の企画、運営、サポートを行う石狩浜自然案内人の育成のための講座。自然観察や展示室や観察園を使った案内等により、石狩浜の自然について学習。

■夏のミニ自然教室

7月24,25,31日,8月1,7,8日（いずれも土日）参加者138名

海浜植物保護センターでクラフト遊び、見本園での自然観察。

指導：石狩浜自然案内人

■自然教室「海辺の草木で染めてみよう」

8月4日（木）参加者7名

ハマナスやハマニンニクでの草木染めと、海辺の植物について学習。

指導：石狩浜自然案内人

■自然教室「ハマナスの実でジャムづくり」

8月27日（土）参加者11名

ハマナスの実でジャム作りと自然観察、ススキの穂でクラフト遊び。

指導：石狩浜自然案内人

■石狩浜 渡り鳥と秋の草花観察会

9月10日（土）参加者10名

石狩川河口の砂浜を巡り、シギチドリ類や海浜植物を観察。

指導：樋口 孝城 氏、栗林 宏三 氏（石狩鳥類研究会） 主催：川の博物館

■自然教室「砂で作ろう、砂を学ぼう～砂絵と砂時計作りに挑戦！～」

10月1日（土）参加者9名

ネイチャーゲームによる自然観察と学習、砂や貝がらによる砂絵や砂時計作り。

指導：石狩浜自然案内人



石狩浜渡り鳥と秋の草花観察会（9/10）



自然教室「海辺の草木で染めて見よう」（8/4）

2. 海辺の自然塾

海浜環境に関する市民ボランティアのための学習会として、専門家と双方向的な情報交換ができる座談会形式の講座を、平成 21 年度より継続的に開催しています。平成 23 年の開催状況は表 1-3 のとおりです。

表 1-3 平成 23 年度海辺の自然塾の開催状況

第 7 回 石狩浜の野鳥～生態と長期観察からわかること～
3 月 3 日（土） 参加者 42 名 講師：石狩鳥類研究会 樋口 孝城 氏
第 8 回 川と海のつながりを学ぶ～『ワカサギ』の生態研究から～
3 月 24 日（土） 参加者 25 名 講師：北海道立総合研究機構中央水産試験場研究員 浅見 大樹 研究員

3. 展示室、企画展示

平成 23 年度は、常設展示、市民による展示コーナー、DVD 鑑賞、休憩スペース、川や沿岸海域の生物の飼育水槽の展示のほか、海辺の素材で簡単なクラフトを楽しめるコーナーを設けました。市民による展示コーナーで開催した企画展示は表 1-4 のとおりです。

表 1-4 平成 23 年度企画展開催状況

開催期間	タイトル
4 月 29 日～ 5 月 16 日	海辺の花ごよみ 2010 1 年間の石狩浜の花や生きものの写真を展示。 (主催：石狩浜定期観察の会)
5 月 19 日～8 月 1 日	石狩小学校平成 22 年度 5 年生による「海浜植物保全ピーアールポスター」展
5 月 19 日～ 6 月 20 日	はまなすの丘 もうひとつの楽しみ方 石狩川河口をウォーキングしながら見えてきた河口の様々な表情を紹介。 (展示作成：【花畔・網】ばんなぐろ・ネット)
6 月 30 日～ 8 月 1 日	虫たちがつくる石狩浜の自然写真パネル展
8 月 4 日～ 8 月 22 日	自然環境保全ポスター展 市内小学生による環境ポスター展出展作品のうち、自然環境保全を訴えるものを展示。
8 月 25 日～ 10 月 3 日	東日本大震災被災地の海岸を訪ねる～ふるさと海辺 フォーラム 2011 in 名取参加報告～
10 月 6 日～11 月 3 日	2011 年度 石狩浜の花ごよみ (主催：石狩浜定期観察の会)

4. 幼稚園、小中学校への学習指導

平成 23 年度、センターを利用した学校等は表 1-5 のとおりでした。

なお、小中学校が石狩浜で取り組める自然や環境保全に関する学習プログラムを示した「石狩浜学習のすすめ」を HP 上で配信しています。

表 1-5 学校等利用状況

日にち	学校・学年	内容	教員	学生・生徒
5 月 24 日（火）	石狩中学校	石狩浜の環境について（講話）	11	116
7 月 4 日（月）	花川小学校 4 年生	石狩浜学習プログラム	2	50
7 月 13 日（水）	石狩中学校 1 年生	石狩浜学習プログラム	6	42
9 月 7 日（水）	石狩中学校 1 年生	石狩浜学習プログラム	5	39
9 月 14 日（水）	花川小学校 4 年生	石狩浜学習プログラム	3	52
9 月 27 日（火）	双葉小学校 3 年	石狩浜学習プログラム	3	50

5. 出張講座・講師派遣事業

平成 23 年度、出張講座及び講師派遣事業は表 1-6 のとおりです。

なお、10 月 8 日藤女子大学花川キャンパス学園祭（藤花祭）における公開講座「石狩浜の自然と保全」の企画についても協力しました。

表 1-6 平成 23 年度出張講座・講師派遣事業実施状況

■科学の祭典 in 石狩（主催：科学Ⅱ祭典 in 石狩実行委員会）
10 月 30 日（日）
会場：石狩市子ども未来館
出展テーマ「砂と植物の不思議な関係」
内容 砂の性質に関する実験と海浜植物の生態解説、海浜植物を用いたクラフト
出展サポート：石狩浜自然案内人 5 名
全体来場者数：1,500 名
■ウミベオロジー/石狩海辺学（主催いしかり館ネットワーク）
11 月 3 日（祝・木）
会場：紀伊國屋書店札幌本店
講演テーマ：石狩浜の海浜植物
参加者：78 名
■石狩大学博物学部（主催：いしかり砂丘の風資料館）
11 月 19 日（土）
会場：石狩市民図書館
講演テーマ：石狩浜のハマナスは減っているのか
参加者：25 名

2月11日（祝・土）

会場：札幌市環境プラザ

出展テーマ「海辺の自然に触れてみよう」

内容：貝殻や流木、海浜植物のタネなど海辺の素材を使って壁飾りづくり。写真や標本で海浜植物の紹介。

出展サポート：石狩浜自然案内人6名

ブース参加者数：約 70 名

6. 出張展示事業

平成 23 年度は、市内公共施設や市外において、石狩浜の自然を紹介するパネル展示を表 1-7 のとおり実施しました。

表 1-7 平成 23 年度出張展示実施状況

期間・日にち	会場	テーマ
4月1日～4月10日	石狩市民図書館	海辺の風景写真パネル展
5月7日～5月12日	石狩市花川北コミュニティセンター	
5月17日～5月30日	札幌市環境プラザ	
6月1日～6月30日	カフェ・マウニの丘	
10月29日～11月3日	紀伊國屋書店札幌本店	ウミベオグラフィー/石狩海辺博物学（主催：砂丘の風資料館）

7. 施設利用

平成 23 年度、センター団体利用状況を表 1-8 に示しました。

表 1-8 平成 23 年度石狩浜海浜植物保護センター団体利用状況

日にち	団体名	内容	学生・生徒
4月23日（土）	屯田北中科学部	見学・解説	5
5月7日（土）	小樽自然教育促進会	見学・解説	46
5月20日（金）	石狩小学校	見学	19
5月21日（土）	酪農学園大学	見学	6
6月10日（金）	発寒幼稚園	見学	70
6月12日（日）	野の花観察会	見学	35
7月3日（日）	JR 日帰りツアー	見学	20
7月6日（水）	藤女子大学	見学	20
7月8日（金）	石狩小学校 4 年生	見学	50
7月13日（水）	江別第 2 幼稚園	見学	60
7月13日（水）	石狩中学校支援学級	見学	10

7月15日（金）	石狩小学校	見学	28
9月3日（土）	いしかり海辺ファンクラブ	見学・解説	15
9月11日（土）	札幌市博物館活動センター	見学	40
9月16日（金）	いしかり館めぐりツアー	見学・解説	30
9月17日（土）	厚田生涯学習課	見学・解説	20
10月6日（木）	石狩小	見学	14
10月10日（月）	北海道地理学会	見学・解説	20
10月15日（土）	苫前町ハマボウフウ研究会	見学・解説	20

8. ふるさと海辺フォーラム

海浜植物の保護活動を各地の海岸に広げていくことを目指し、海辺の自然保護活動に取り組む団体と交流を図っています。平成23年度は、6月18、19日（土、日）に、宮城県名取ハマボウフウの会の主催により、東日本大震災の被災地でもある宮城県名取市で開催されました。震災からの復興を祈念して、閑上海岸への移植会等も実施されました。

表 1-9 平成23年度ふるさと海辺フォーラム開催状況

■開催日

6月18日（土）、19日（日）

■会場

宮城県名取市「増田西・老人憩いの家」

閑上海岸ハマボウフウ保護区

■基調講演（1日目）

タイトル：名取の海岸の歴史

講師：菊池 多賀夫 氏（名取市自然と地域のふれあい活動推進委員会委員長）

■団体活動発表（1日目）

1. 石狩浜海浜植物保護センターの取り組み～石狩浜の保全活動～

（石狩浜海浜植物保護センター）

2. よこはまホテル村（青森県横浜町文化協会）

3. おいらせ町の活動（青森県おいらせ町商工観光課）

4. 秋田市での会設立準備（新屋ハマボウフウの会）

5. セケ宿「水源の森」から（宮城県セケ宿・水守人の会）

6. 南相馬市の現況報告（福島県かしま観光協会事務局）

7. 黄色いレシートキャンペーンについて（イオン名取店）

8. きたねむろに於けるハマボウフウ栽培の取り組み（きたねむろ山菜エコランド）

9. セケ浜からの報告（宮城県セケ浜ハマボウフウの会）

10. 茅ヶ崎海岸の近況（神奈川県NPO法人ゆい）

11. 寺泊海岸の新しい動き（新潟県寺泊海岸保護推進協議会）

12. 浜松市の海岸の活動（静岡県サンクチュアリジャパン）

13. 閑上海岸の活動報告（宮城県名取ハマボウフウの会）

■ハマボウフウ移植会（2日目）

立看板除幕式・若苗移植会

■シンポジウム「海岸の未来と市民活動」

パネラー1.未来に残そう石狩海岸の自然（石狩浜定期観察の会）

パネラー2.海岸の未来と市民活動（神奈川県NPO法人ゆい）

パネラー3.太平洋沿岸の環境調査から（静岡県サンクチュアリエヌピーオー）

パネラー4.闊上海岸の望ましい未来のために（宮城県名取ハマボウフウの会）

■参加者数

1日目：約40名

2日目：ハマボウフウ移植会:約60名 シンポジウム:約30名

■参加団体数

14団体

9. 執筆・寄稿

平成23年度、出版物への投稿は表1-10のとおりです。

表1-10 平成23年度出版物への寄稿・執筆状況

■雑誌「グリーン・エイジ GREEN AGE／第38巻第11号」

発行：財団法人日本緑化センター

テーマ：体験から自然を学ぶ環境教育「石狩浜海浜植物保護センターの取り組み」

■書籍「はまなす×いそこもりぐも@石狩浜」

発行：藤女子大学人間生活学部

テーマ：「石狩市による石狩浜の環境保護の取り組み～行政の立場から」

■「石狩砂丘と石狩浜のきのこ」

発行：NPO法人北方菌類フォーラム

テーマ：コラム「石狩砂丘の海浜植物」

10. 刊行物・HP

平成23年度に配布した刊行物等の配布状況は表1-11のとおりでした。

HPは、<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/index.htm>で配信し、行事情報、開花情報を中心に更新しました。ホームページアクセス数は表1-12のとおりです。

表 1-11 平成 23 年度刊行物発行状況

刊行物名	内容	配布場所
通信誌「はまぼうふ」vol.38～41	浜の自然情報やセンターの行事予定などを掲載	石狩浜海浜植物保護センターと市内外公共施設
石狩浜自然観察 ハンドブック	石狩浜の自然について、写真、イラストなどで紹介(A5版 30ページ、300 円で販売)	石狩浜海浜植物保護センターとはまなすの丘公園 ビジターセンター
パンフレット 「石狩浜海浜植物 保護センター」	石狩浜海浜植物保護センターの施設紹介	石狩浜海浜植物保護センターと市内外公共施設

表 1-12 石狩浜海浜植物保護センターホームページアクセス数（単位：件）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
件数	1,344	1,479	1,383	1,294	1,347	1,207
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
件数	864	802	1,779	2,072	2,462	1,190
年間計	17,223					
月平均	1,435					

1 1. 海浜植物種子の配布

来館者が記念に海浜植物の種子を持ち帰り、自宅の庭など身近な場所で育て親しみを持つことで、再び石狩浜を訪問するきっかけになるよう、またハマボウフウについては、センター前の砂丘に蒔いてもらうため、海浜植物の種子を植物種の解説と育て方を書いたシートとともに来館者へ配布しました。配布した種子の種類と数は、表 1-13 に示しました。

表 1-13 海浜植物種子配布状況（単位：袋）

種類	配布袋数	種類	配布袋数
ハマボウフウ	646	ハマヒルガオ	337
ハマエンドウ	325	エゾカワラナデシコ	540
ハマハタザオ	261		

2. 調査・研究

平成 23 年度の主要な調査研究は、以下のとおり実施しました。

1. 石狩海岸における利用状況モニタリングと植生回復実験

1) 事業概要

平成 20 年度より 10 年間かけて、北海道大学大学院農学研究院がセンターと共同で、海浜植生域でのオフロード車等の走行が植生に及ぼす影響を明らかにするため、オフロード車等の走行量モニタリング調査に取り組んでいます。あわせて、調査区域から車両等を排除し、車両走行により生じた侵食穴（風食凹地）に砂を埋め戻した上で防風措置を行い、植生の回復と地形変化の変遷を同様にモニタリングしていく事業に取り組んでいます。

2) 調査結果概要

オフロード車走行が止まない砂丘上の通行量調査を行うため、平成 20 年度からサイトを Site1、平成 22 年度からサイトを Site2 にカウンターを設置しています。平成 23 年度は、カウンター機器の不具合により十分な調査期間が得られず、前年度以前と比較できるデータが得られませんでした。サイト間の比較では、平成 22 年同様、site2 の方が圧倒的に多く、石狩湾新港へ近いほど、走行台数が多いことが伺えます。

平成 24 年度には、機器の不具合を補いデータ精度を上げ、柵や看板の効果の検証を行うとともに、今後の動向を注視します。

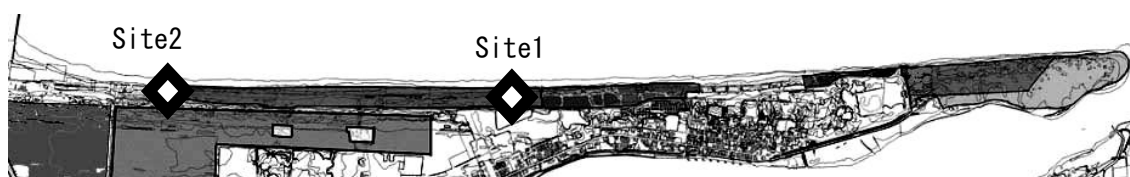


表 2-1 Site1 の車走行カウント数等の年推移（単位：回）

	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年
調査期間（日）	80	197	189	16
カウント日数（日）	14	26	16	6
カウント総数（回）	61	80	36	31
日当たり最大カウント数（回）	12	9	6	9

表 2-2 Site2 の車走行カウント数等（単位：回）

	平成 22 年	平成 23 年
調査期間（日）	189	53
カウント日数（日）	56	17
カウント総数（回）	829	253
日当たり最大カウント数（回）	60	70

植生回復実験は、地形破壊がなく車両を排除しただけの試験区（車両排除試験区）では、既存植生の根茎が残されていたため、1年後から植生の回復がみられ、2年目にはほとんど植生に覆われました。地形が破壊されたため砂の埋め戻しを行った試験区（地形回復試験区）では、1年後にはほとんど植生の回復が見られませんでした。2年後以降、少しずつ植生の回復が見られています。

調査結果については、北海道大学大学院農学研究院 園芸緑地学分野 花卉・緑地計画学研究室で取りまとめています。

2. はまなすの丘海岸線侵食状況調査

はまなすの丘海岸線の侵食状況を把握するため、平成21年秋に浜崖の縁から2mおきに3本杭を立てた地点A～Hにおける浜崖の後退状況を、現地を歩いて調査しています。平成21年10月から平成22年春にかけて、砂嘴先端部付近F,G,Hで10m以上の侵食があり、G,Hでは浜崖がほぼ消失し、汀線から植生域までほぼ平坦な地形となりました。浜崖の侵食は、夏期よりも冬期に著しいことがわかりました。

平成23年度の冬期は、1か所（地点B）で7mの侵食が見られましたが、他の地点ではほとんど変化はありませんでした。

今後も継続調査を行っていきます。



図2-1 はまなすの丘海岸線侵食状況調査箇所

3. 砂丘草原植生モニタリング調査

石狩砂丘草原における植生の状況を把握するため、平成18年に設置した植生調査区のうち、6区をボランティアさんの協力を得て植生調査しました。その結果、海か

ら100m付近の区画においては、ハマニンニク群落からススキ群落への遷移が見られましたが、内陸の調査区では、ハマナスの減少等大きな変化は見られませんでした。今後も、継続調査を行っていきます。

4. 植物開花状況等調査

石狩浜の自然情報収集のため、4月から10月までの第1,3,5水曜日、植物の開花状況及び観察される野鳥を記録しました。調査時に開花植物等の写真も撮影し、開花情報としてセンター展示室に掲示しました。

石狩浜定期観察の会を中心とした延べ111名の市民ボランティアの方々が取り組みました。

5. 自然情報の収集・まとめ

平成23年度は9号、10号を発行し、これまで発行した石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告は、表2-3のとおりです。これらは、HP上で公開しています。

表 2-3 石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告

報告書名	号
石狩浜における植生モニタリング区の設置と14年間の植生変化(2002年度調査)	1号
石狩川河口湿地部における植生モニタリング区設置と植生概況(2003年度調査)	2号
石狩海岸林の植生概要(2004年度調査)	3号
石狩浜定期観察による植物開花状況の記録(2004/2005)	4号
石狩浜定期観察による植物開花状況および野鳥の記録(2006)	5号
聚富海岸の植生概況(2007年度調査)	6号
石狩浜定期観察による植物開花状況および野鳥の記録(2007)	7号
1989年以降に記録された石狩浜の植物種リスト	8号
2008年から2010年の石狩浜定期観察による植物開花状況等の記録	9号
石狩川河口砂嘴における植生分布の変化	10号

3. 自然観察園の整備

1. 見本園

センターの自然観察園は、展示施設に隣接した約 2,100m²の敷地です。約半分は自然植生ですが、石狩浜で見られるおもな植物が観察できるよう、温室で種子から育てた苗も移植しています。

平成 12 年度のオープン以来、裸地への移植を行ってきましたが、現在では、ハマニシク、コウボウシバ、カモガヤ、ススキ、ヒメムカシヨモギ、アキグミ等の繁茂が著しく、他の海浜植物の観察がしにくい状況になったため、刈り取りや掘り起こしによる除去を行っています。また、ススキやアキグミ、外来植物も増えたため、これらも積極的に除去しています。

移植した海浜植物は、数年で株が衰退してくるので、新たに育成した苗を移植しています。

温室の南側は、はまなすの丘の湿原に自生するおもな植物を観察することができるよう、湿地環境をつくり、タチギボウシやノハナショウブなどを移植しています。

平成 22 年度は、ヒメイズイ、イソスミレ、エゾスカシユリ、カセンソウ等の移植を行いました。

また、平成 22 年度、日本造園学会北海道支部学生セッションにおいて提案された「石狩砂丘の植生の帯状構造の再現・来館者等の参加による管理」の考え方を一部採用し、不安定な砂地帯を再現しました。不安定な砂地帯は、来館者が砂遊びや掘って根の観察をすることにより、維持されています。また、観察園の陸側にカシワを播種・移植し、海岸林の再現を試みています。さらに、自然草原エリアを広く観察するため草刈りによって散策路を設けるとともに、クイズラリーのための看板を設置し、イベント時等に活用しました。

今後も、散策路の活用や砂丘植生を学ぶ場として、整備、維持管理を図っていきます。



図 3-1 自然観察園概況

2. 市内公園花壇等での海浜植物栽培

センターでは、見本園や裸地化した海浜地などへの移植、市民への普及啓発のための配布、試験研究への提供を目的として、約 20 種の石狩浜自生植物の苗を作っています。これらの苗の一部は、市民が身近に海浜植物に親しめるよう、市内の公園 2 箇所の花壇に移植し、また湿生植物を紅葉山公園の池でイカダに乗せて市民の目を楽しませています。平成 23 年度、海浜植物を育てた公園は、表 3-1 のとおりです。公園花壇については、管理は地元のボランティアの方々が行っていますが、継続した取り組みが難しい地域もあり、今後継続を検討する必要があります。

表 3-1 平成 23 年度市街地公園花壇への海浜植物移植状況

公園名	海浜植物の種類
紅南公園 花川南公園	エゾカワラナデシコ、ノコギリソウ、エゾカワラマツバ、ウンラン、イソスミレ、ハマハタザオ、コガネギク、ハマボウフウ、ナミキソウ、エゾスカシユリ、カセンソウ
紅葉山公園 (イカダ)	ノハナショウブ、タチギボウシ、ナガボノシロワレモコウ、クサレダマ



紅葉山公園の池



紅南公園の花壇

4. 環境整備事業

石狩浜の自然に親しみやすい環境づくりのため、観察路の維持と外来植物の除去を行いました。

1. 親船名無沼観察路

通称親船名無沼は、平成 17 年度に行った動植物相調査により、多様な水生動植物が生息生育することがわかりました。多くの人が沼の自然に親しめるよう、センターでは平成 18 年より、道路から沼岸まで近づける歩道、観察場を設置し、維持管理を行っています。平成 23 年度も引き続き維持管理を行いました。



図 4-1 通称親船名無沼の位置

2. 石狩浜海浜植物保護センター～弁天歴史公園散策路

石狩浜海浜植物保護センターから弁天歴史公園などの周辺施設まで、自然に親しみながらのんびり散策して廻れるよう、「石狩浜海浜植物保護センター」→「弁天歴史公園」→ブロンズ像「無辜の民」→「ヴィジターセンター」を結ぶ散策路を検討しています。

これまで、石狩浜海浜植物保護センターから弁天歴史公園までの間に、海浜植物群落やニセアカシア林を通る散策路を整備し、平成 23 年度も草刈り等維持管理を行いました。



図 4-2 海浜植物保護センターから弁天歴史公園までの散策路のルート

3. 外来植物等の除去作業

はまなすの丘の木道周辺は、多くの観光客や散策者が訪れ、石狩川河口の海浜植物群落の景観を楽しむ場所ですが、ニセアカシア、カモガヤなどの外来植物及び内陸性植物のススキが増加し、景観が損なわれつつあります。景観保全のため、木道周辺の

外来植物等の除去に取り組んでいます。

平成 23 年度は以下のとおり実施しましたが、除去が必要な箇所はまだ多く残っており、今後も継続していきます。

表 4-1 平成 23 年度外来植物等の除去作業実施状況

日にち	参加者数	参加団体等
4月24日(土)	40名	石狩市緑化推進協議会、石狩ライオンズクラブ、親船高齢者クラブハマナス会、石狩浜定期観察の会、ふるさと自然塾、石狩観光協会、センター運営委員会、石狩観光協会、石狩植物愛好会 ほか
10月14日(金)	28名	

5. 来館者数

平成 23 年度の開館期間中（4 月 2 日～11 月 3 日）の来館者数は、8,899 人でした。5～6 月の週末の天候が悪かったことが、昨年と比べて減少した理由と考えられます。

月別来館者数は、図 5-1 に示しました。また、平成 12 年度からの来館者数の変化を図 5-2 に示しました。なお、平成 23 年度における来館者アンケートの結果は P23 に掲載しました。

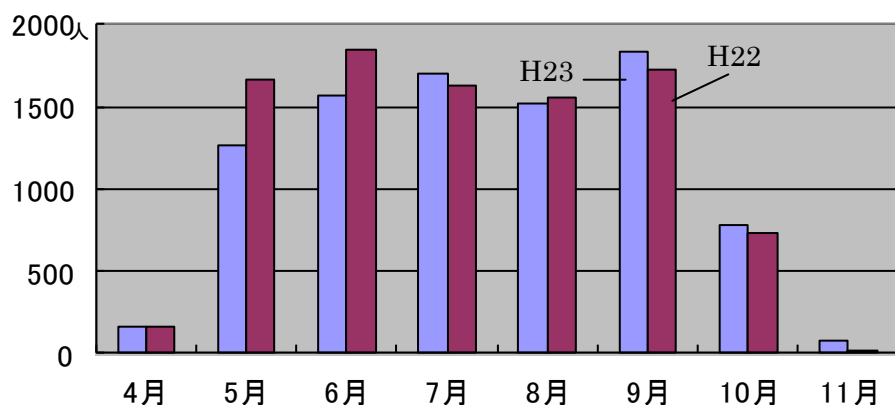


図 5-1 平成 23 年度の来館者数の月変化と前年度との比較

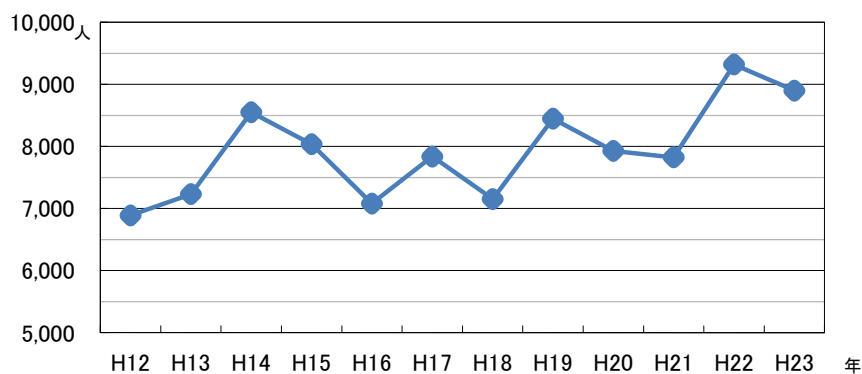


図 5-2 平成 12～23 年度の来館者数の年変化

6. 保護・回復対策

1. 海浜植物等保護地区の監視

石狩市海浜植物等保護条例（平成 24 年 3 月改正）によって定めている海浜植物等保護地区「河口地区」において、4 月から 10 月まで、監視員 2 名により、ハマボウフウなど海浜植物の採取や、バイク等の乗入れ等を防ぐための監視を行いました。

春先はハマボウフウの採取者が多く、海水浴シーズンは、キャンプ等で保護区内に進入する利用者が、秋にはハマナスの実を採取する人が増えるなど、監視による採取防止効果は大きいと思われます。

平成 18 年度からは、保護地区の看板の数を増やす、海側から保護地区への立ち入りを防ぐためのロープ柵を延長するなど、保護地区への立ち入り防止対策を強めています。

2. 石狩川河口海浜植物等保護条例の改正と「聚富地区」の指定

良好な海浜自然環境を将来にわたり保全していくため、石狩川河口周辺を対象とした「石狩川河口海浜植物等保護条例」を一部改正し、本市全域の海浜を対象とする「石狩市海浜植物等保護条例」を、平成 24 年 3 月より施行しました。

これに伴い、平成 24 年 3 月より、新たに「聚富地区」を指定（図 6-1）し、すぐれた自然景観や植生保全を図っていくこととしました。



図 6-1 石狩市海浜植物等保護条例で指定する海浜植物等保護地区

2. 車乗入れ防止柵の設置・維持管理

図 6-2 に示す、石狩浜海水浴場を挟んで東西に約 1km の範囲は、平成 4 年より石狩市が独自で車乗入れ防止柵を設置し、車走行による植生の破壊を防いでいます。しかし、ロープを切断したりかいくぐったりして侵入するサンドバギー車やモトクロスバイクが後を絶たないため、平成 21 年度より、常習的な侵入路においてはワイヤーや鋼管杭、看板設置によって侵入防止対策を強化しています。

その結果、平成 23 年度は、植生上を走行した車両および走行跡はほとんど確認できず、対策の効果が見られました。

石狩湾新港側約 2.6km の海岸保全区域には、北海道空知総合振興局札幌建設管理部（旧札幌土木現業所）が、「石狩湾沿岸海岸保全基本計画」（平成 15 年、北海道）に基づき、平成 17 年より車乗入れ防止柵を設置しています。この地域においては、サン

ドバギー車やモトクロスバイクの植生上への進入が頻繁に確認され、特に石狩湾新港に近い箇所から進入していることがわかっています。

平成 23 年度は、前年度に引き続き、総務省行政評価局による「石狩浜の海浜植物保全に関する『あっせん』」（平成 21 年度）に基づき、常習的な侵入口に海浜植物の自生地であることを示す看板を立て、鋼管杭を設置するなど、侵入防止対策を強化しました。

しかし、鋼管杭が設置されていない箇所のトラロープを切断し新たな侵入口にするなど、侵入は後を絶たない状況です。

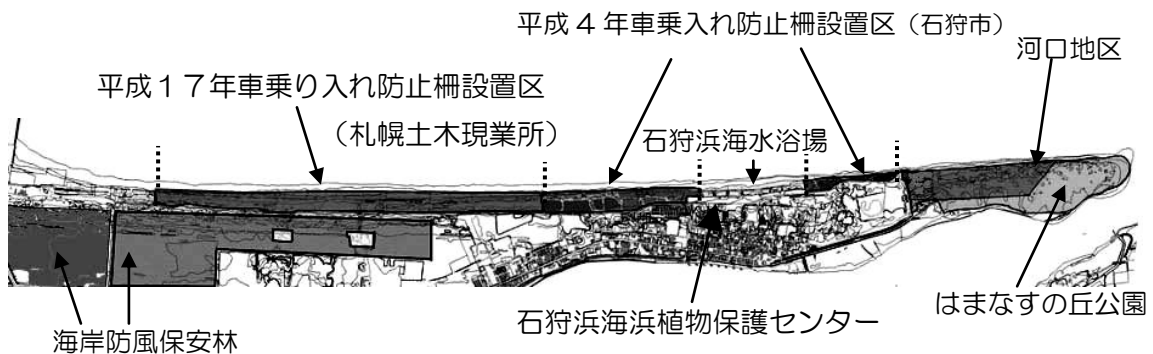


図 6-2 車乗り入れ防止柵設置区および保護区の位置

3. 石狩浜環境保全連絡会議の設置・協議

石狩湾新港から三線浜、石狩川河口（右岸地区含む）に至る、石狩浜の保全対策を検討するため、関係行政機関による石狩浜環境保全連絡会議を平成 21 年 7 月 1 日より発足しました。会議の構成は、海岸防風保安林を所管する石狩森林管理署、海浜地のうち海岸保全区域及び一般海浜地を管理する北海道札幌建設管理部、港湾区域を管理する石狩湾新港管理組合及び石狩市です。

平成 22 年度以降、総務省行政評価局による「石狩浜の海浜植物保全に関する『あっせん』」に基づき、海岸法、自然環境法令等の適用による、石狩海浜地の車乗り入れ規制を検討してきましたが、これらの適用は、要件等を満たさないことから困難との見解が、各所管より出されました。

石狩市の条例による規制の可能性を検討した結果、次のような段階的な方向性が出されました。①平成 4 年より石狩市が自主的に柵を設置している地域について、石狩市が正式に占有、市条例に基づく保護地区とし、併せて保全の効果を検証する。②効果が見られるようであれば、柵の強化等対策に伴い段階的に保護地区を広げていく。

今後、市民への周知等図りながら、この方向性に沿って保全を進めていきます。



平成 22 年度より設置の看板

資料

行事参加者アンケート結果

1. 自然観察会（5/14・回答数：39）

この観察会は何で知りましたか？		どのようなことを期待して参加しましたか？	
広報いしかり	7	自然とふれあう	17
新聞	0	動植物の生態について学ぶ	15
あい風通信（石狩市民カレッジ）	1	植物の名前をおぼえる	13
北海道民カレッジ	5	石狩浜について知る	28
あいボード・ポスター	0	石狩浜のガイドや学習指導に活かす	3
HP	1	絵手紙や俳句などの材料集め	1
その他（他団体の通信誌・部活動など）	25	知人や家族とのふれあい	1
		体を動かす	4
		その他	0
内容はいかがでしたか？		観察会のコースはいかがでしたか？	
とてもわかりやすかった	17	長い	3
わかりやすかった	14	ちょうどいい	33
ふつう	4	短い	3
わかりやすかった	0		
聞こえにくかった	3		
難しかった	0		
もっと詳しく聞きたかった	2		
もっと歩きたかった	1		
その他	2		

2. 海辺の風景再発見フォーラム（5/29・回答数：51）

今回のフォーラムに参加したきっかけは？（複数回答）

石狩湾の海の中の映像を見たかった	17
パネルディスカッションを聞きたかった	12
海・海辺の自然について知りたかった	32
海・海辺の保全について考えたかった	24
その他	7

基調講演「石狩湾海の中の世界」を聞いた感想

貴重な映像を見ることができた	5
興味深い内容だった	12
驚きや焦燥感を感じた	9
海辺の生き物や環境を保護する大切さを知った。または、再認識した	5
考えさせられる内容であった	10
今後どのように取り組むべきかヒントになった（啓蒙活動の大切さ）	4

パネルディスカッションを聞いた感想

・興味深いお話が聞けてよかった	2
・理解を深めることができた	3
・保全の難しさを感じた	1
・各分野のお話が聞けて良かった	7
・今後も海辺の魅力を残していきたい	6
・保護の大切さを感じた	5
・今後は、啓蒙活動や教育の拡充が必要だと思う	7
・今後は、実践機会の提供が必要だと思う	1
・横松氏の進行について	2
・志賀氏のお話について	4
・高木氏のお話について	1
・松島氏のお話について	4
・パネルディスカッション内容改善について	6

海・海辺の保全活動の情報を得ようとしたとき、 どのような方法を望まれますか？（複数回答）

ホームページ・ブログへの掲載	26
新聞への掲載	25
公共施設等での情報誌の配布	23
情報誌のダイレクトメール（郵送またはFAX）	4
メーリングリストによる配信	3
その他	6

3. 海辺の風景再発見の旅 (6/25・回答数：36)

どのようなことを期待して参加しましたか？ (複数回答)		観察会の内容は、いかがでしたか？	
石狩浜の自然を知る、学ぶ	33	わかりやすかった	28
動植物の生態について学ぶ	12	ふつう	6
野鳥・植物の名前を覚える	18	わかりにくかった	0
保全活動に活かす	1	難しかった	0
石狩浜のガイドや学習指導に活かす	3	聞こえにくかった	0
知人や家族とのふれあい	2	もっと詳しく聞きたかった	3
体を動かす	7	もっと歩きたかった	3
その他	0	その他	
観察会のコースは、いかがでしたか？		・案内してくださる方が豪華でした。	
		・最後の海岸段丘の説明は、車から降りて 360度見渡せる状態で聞きたかった。	
		・海を見られてすごくりフレッシュしまし た。	
長い	0		
ちょうどよい	35		
短い	1		

海・海辺の保全活動に関わるとしたら、どのような関わり方が ご自身でできると考えますか？ (複数回答)

自然観察会等に参加して学ぶ	28
知人など魅力を紹介する	16
自らホームページ・ブログ等で情報を発信する	0
清掃、外来種除去作業等ボランティア活動に参加する	14
ファンクラブ等ボランティア活動団体に参加する	4
保全を目的とした募金活動への募金を行う	4
その他	2
・すでにいくつかの団体に属して活動中	
・調査等	
無回答	1

海・海辺の保全活動の情報を得ようとしたとき、

どのような方法を望まれますか？ (複数回答)

ホームページ・ブログ等への掲載	15
新聞への掲載	19
公共施設等での情報誌の配布	23
情報誌のダイレクトメール (郵送または FAX)	7
メーリングリストによる配信	5
その他	0

感想

【 本企画の評価 】

- ・花だけでなく、地形、歴史、虫等いろいろなことがわかって良かった。
- ・ゆったりとした行程で、無理なく一日を終えることができた。
- ・専門の方の説明で、より深く知ることができた。時期的によかったと思います。
- ・スタッフが多く、説明が充分聞けた。定例で開催を望みます。

【 本企画への改善点 】

- ・無煙浜海岸段丘で降りてみたかった、下の海岸まで行ければもっとよかった。
- ・昼休みの時間を1時間ほどほしいです。（少し自由行動ができますので）
- ・生き物だけでなく、地形を学べたのが良かった。（地図好きなので）生き物と人間の関わり方も各時代をそれぞれに、説明に加えるといっそう良いかと思います。
- ・講師の方々の質が高く、満足でした。動植物は、季節によって全く違うので、7/31の他にもう2回くらいは、やってほしい。その際、回る範囲（場所）は、もう少しすくなくてよい。

【 今後の企画への提案 】

- ・改めて石狩浜の自然について知ることができました。今後は、ポイント（場所）をしぼった観察会や清掃、外来種駆除作業の企画を期待します。
- ・昆虫に詳しい山本さんグループに参加：虫の視点での話が聞けて良かった→海浜性植生に依存している海浜性昆虫の世界も注目していく必要があると感じた。

4. ハマナスのジャムづくり&クラフト教室（8/27・回答数：11）

楽しかったですか？		つまらなかったこと、嫌だったことは？	
とてもたのしかった	9	ある（ススキの人形作り）	1
まあまあたのしかった	2	ない	8
あまりたのしくなかった	0	無回答	2
楽しかったこと、よかったことは？		リーダーの話はわかりやすかったですか？	
ハマナスの実をとる	4	とてもわかりやすかった	10
ジャム作り	8	まあまあわかりやすかった	1
自然観察	4	あまり楽しくなかった	0
ネイチャーゲーム（わらしべウォーク）	4		
ススキの人形作り	9		
ネイチャーゲーム（紋づくり）	3	自然教室にまた来たいと思いますか？	
試食	4	ぜひ来たい	8
いろいろな発見があったこと	2	機会があれば来たい	3
友達ができたこと	1	来たくない	0
家族でふれあえたこと	0		
その他	1		

石狩浜海浜植物保護センター利用者アンケート結果

(回答数 7)

お住まいは、どちらですか？		よろしければ年齢をお聞かせください	
石狩市内	3	20 歳未満	4
札幌市 北区	1	20 代	1
札幌市 東区	0	30 代	0
札幌市 西区	1	40 代	2
札幌市 豊平区	0	50 代	0
札幌市 中央区	1	60 歳以上	0
札幌市 白石区	0		
札幌市 南区	0	石狩浜へは、年に何回こられますか？	
札幌市 手稲区	0	初めて	3
札幌市 厚別区	0	数年に 1 回	2
札幌市 清田区	0	年に 1 回	1
上記 2 市以外の北海道内	1	年に複数回	1
北海道外	0		
当センターについて何で知りましたか？		当センターの利用目的は？	
新聞・情報誌、広報等	0	自然学習や情報の収集	3
インターネット	1	行事への参加	0
ヴィジターセンターでの情報	0	観光・見学	4
看板	1	休息	
この場所を通りかかって	3	その他	1
口コミ	0		
その他（学校行事）	3		

■ センターを利用して良いと思われた点、改善した方がよいと思われた点、感想等

- ・とてもわかりやすく、楽しく学べたのでこのままで良いと思いました。
- ・展示の工夫よし。解説員の方から得られる生の情報は、具体的でわかりやすい。ありがとうございました。工作コーナーが楽しかった。海の生き物水槽があってよかった。
- ・海浜植物の種が置いてあり、さらに、生きている植物がじかに見られたこと。
- ・写真や資料がたくさんあって、充実していました。写真も大きく見やすいし、説明も簡単で子どもにもよかったです。
- ・説明がわかりやすく、丁寧であった。
- ・展望台からの眺めが最高でした。
- ・石狩の自然の雄大さを改めて感じました。
- ・生きている海浜植物が見られたこと、前に石狩浜を歩いたときにゴミが多いと思いました。
- ・浜は、あまりゴミもなくきれいでした。ここにこんなに植物があるのをこちらに寄って初めて知りました。楽しかったです。
- ・石狩のことをよくわかり、すごくよかった。ありがとうございました。

沿革

海浜植物保護センター開設の目的

石狩海岸地域は、北海道自然環境保全指針において「すぐれた自然地域」に指定されるとともに、大都市近郊において、海岸砂丘の生態系を色濃く残す自然海岸として、全国的にも大変貴重な地域となっています。しかし、美しい海浜植物や雄大な海浜景観は、レジャーをはじめとする過度な利用により、次第に失われつつあります。

このような状況において、豊かな海辺の自然を市民共有の財産として保全し、後世へ残して行くためには、市民、行政、研究機関とが協働して普及啓発活動や調査研究活動に取り組むことが不可欠です。石狩海浜植物保護センターは、その活動拠点として、平成12年4月に開設されました。

施設と業務内容

施設は、①海浜植物の保護についての調査・研究、②石狩浜保全への啓発、を目的としたもので、屋内は、大きく展示室と実験室、屋外は、温室と自然観察園に分かれています。

展示の方針は、来館者に海浜植物はじめとする石狩浜の自然情報の提供や保全活動状況の紹介、作品展示などを行うことができる、更新性を備えた市民参加型の展示としています。また、展示室は研修機能を備え、フィールドと一体となった研修の場を提供しています。

自然観察園は、石狩浜に生育する海浜植物を一同に集め、その生態観察の場となっています。

調査研究機能としては、保全に向けた海浜植物の生態研究のために、実験室、および研究対象植物を育成するために温室が備わっています。また、見本園の一部も、調査・試験区として利用することができます。

海浜植物保護センター施設略図



以下、保護センターにおける主要業務を示します。

○ 啓発・普及業務

展示施設・自然観察園の整備・更新

施設見学者への対応

講座・観察会等の開催

市民に対する情報提供・機関紙の発行・ホームページの管理・運営

ボランティア・各種団体・研究機関との連絡調整

○ 調査・研究業務

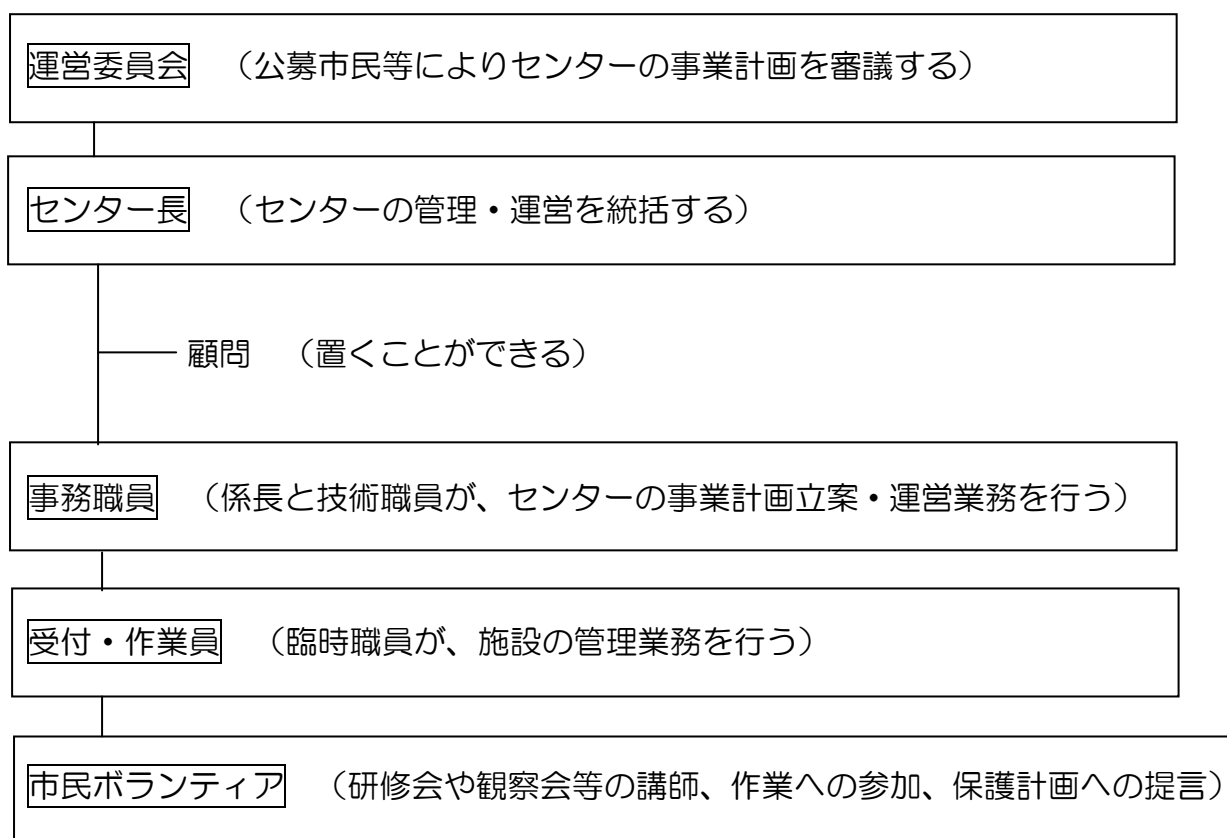
石狩浜の動植物の生息、生育状況に関する調査

海浜植生の保全に係る調査研究と実施

海浜植物の保護・保全計画の立案と実施

ボランティアグループの調査研究活動支援

管理運営・組織図



平成23年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告書

平成24年8月発行

発行 石狩市

編集 市民生活部環境室石狩浜海浜植物保護センター

開館期間中 〒061-3372 石狩市弁天町 48-1

tel.0133-60-6107 fax.0133-60-6146

冬季閉館中 〒061-3292 石狩市花川北6条1丁目 30-2

tel.0133-72-3240 fax.0133-75-2275

E-mail ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/index.htm>